

天文6

「秋の星空」

天文担当 片野田 裕亮

■ 星空観察にチャレンジしてみよう

令和4年も後半に入りましたが、今後も流星群や皆既月食、火星が地球に最接近するなどの多くの天文現象が見られる予定です。

「星空の観察」と言われると、望遠鏡が必要だったり、見晴らしのよい場所に移動したりと、少し手間がかかりそうというイメージがあるかもしれませんが、そのようなことはありません。家の庭や近くの公園などで、星空を見上げてみましょう。ここで、星空観察をおこなう時のポイントを紹介します。

- ① リラックスできる姿勢で観察する。
- ② 街明かりをノートなどで隠す。
- ③ その日に見えやすい星座を調べる。
- ④ 方位、時間を調べる。

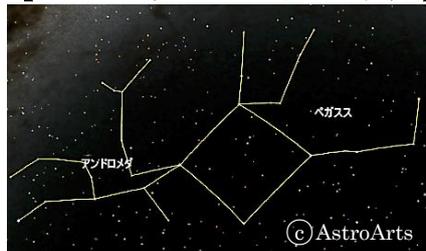
①はレジャーシートや椅子などを用意するとリラックスして観察できます。②は、街明かりをノートなどで隠すことで、星を観察しやすくなります。③と④については、スマートフォンのアプリやインターネットで簡単に情報を得ることができます。

安全には十分注意しながら、まずはリラックスして星空を眺めることから始めてみましょう。

■ 秋に見られる星座と天文現象

それでは、秋に見られる星座と天文現象を紹介します。

【ペガサス座とアンドロメダ座】



南東の空高くにひと続きのペガサス座とアンドロメダ座が見られるようになります。ペガサス座の胴体になる1個の2等星と、2個の3等星にアンドロメダ座

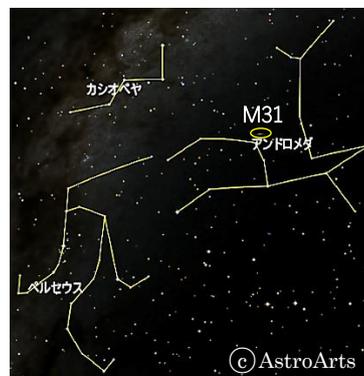
の2等星を1個加えてできる四角形を「秋の四辺形」と呼んでいます。アンドロメダ座には、アンドロメダ銀河 M31 があります。双眼鏡などを使うとよく見えます。

【カシオペヤ座】

秋の宵の頃に北の空を見上げると、明るい5個の星が「W」の形に並んで見えます。カシオペヤ座です。北極星を見つけるときの目印として、北斗七星とともに知られている星座です。

【ペルセウス座】

秋の終わり頃、宵に北寄りの空の頭上近くに見られる星座です。カシオペヤ座とアンドロメダ座のすぐ近くで見られ、星の並びが、3列のカーブが合わさって、「人」の字形となっています。



ここで紹介した星座は、古代エチオピア王家にまつわる物語の登場人物や動物たちです。どのような物語なのか自分で調べてみて、星空を見上げてみるのも、星空観察の楽しみの1つではないでしょうか。

【皆既月食】



11月8日には、全国で皆既月食が見られます。鹿児島で月が欠けて見え始める時刻は

18時08分頃、完全に太陽の影に隠れる食の最大が19時59分頃となり、観察しやすい時間帯に月食が起こります。皆既月食は、地球の影に月全体が入り込み起こる現象ですが、太陽光が大気によって屈折して、赤い光がわずかに影の中に入りこむため「赤銅色」となります。ぜひ観察してみてください。